

モバイルで融雪装置を制御 燃料費とCO₂の大幅削減に寄与

効果を上げたモバイルはこれ!

業種 ITシステム企画・開発・販売

活用分野 融雪装置(ロードヒーティング)の遠隔制御

テクノロジー パケット通信サービス「CDMA IP Link」、通信モジュール「WM-M200」、携帯電話

真冬日の多い北海道や青森では、融雪装置として玄関先や駐車場などに埋設した温水パイプや電気ヒーターで路面を暖めるロードヒーティングシステムが使われている。その運転(ボイラーなどのON/OFF)を降雪センサーによって自動化する仕組みも、アパートやマンションなどでは一般的だ。

しかし、センサーが雨や小雪にも反応し、積雪がないのに路面を暖めてしまうことが多々あり、費用や環境対策の面で課題となっていた。

ここに解決策を提供したのが札幌市のベンチャー企業エコモットであ

る。モバイル通信でロードヒーティングの遠隔制御が行える「ゆりもっと」を開発し、好評を博している。「ITで環境を良くしたい」を経営理念とする同社の入澤拓也社長は、「融雪装置の無駄な運転を排除すれば、燃料費の削減とともにCO₂の排出も抑制できます」と、その利用価値を強調する。

◎ センサー情報をトリガーに画像付きメールで降雪を通知

「ゆりもっと」は、マンションなどの建物に設置した降雪センサーが雪を検知すると、現場に設置したカメラの画像(静止画)を建物のオーナー等にメール添付で通知するサービスだ。利用者はその画像を見て融雪装置を動作させるかどうかを判断できる。

融雪場所と専用サーバーの間にモバイル通信(KDDIのパケット通信サービス「CDMA IP Link」)を利用を採用したことで、配線工事などの手間もなく導入は非常に簡単。しかも、融



「モバイルを活用して環境改善に役立つシステムをどんどん提供したい」

エコモットの入澤拓也代表取締役社長

雪装置の操作を行う専用サイトは携帯電話にも対応しているため、外出先からでも遠隔制御が行える。

融雪装置側での不燃焼や故障などが発生した場合の異常通知機能も装備されている。さらに、タイマー運転の設定や、燃料の使用量試算に役立つ積算運転時間の確認なども画面上で行えるようにした。

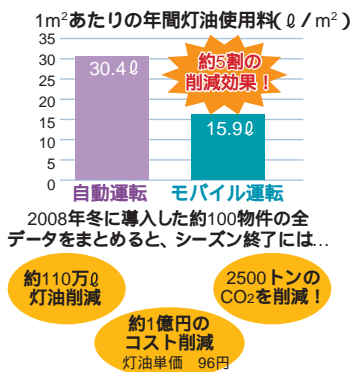
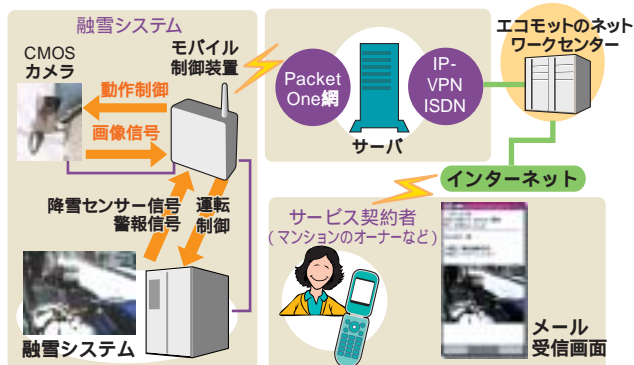
◎ 燃料使用量が平均5割減 監視にも役立つカメラ撮影機能

「ゆりもっと」の導入実績は1年間で約100システムにのぼった。利用者側では、平均すると約5割の燃料(灯油)使用量削減が実現されている。「トータルで約110万リットルの燃料、約1億円のコスト、約2500トンのCO₂が

削減できた計算になります」と、入澤社長は成果を話す。

加えて、融雪現場をカメラで撮影できる機能を違法駐車などのチェックに役立っているマンションオーナーもいるという。こうした副次的な用途を捉え、同社では「ミルモット」と名づけた定点カメラ監視システムの提供も始めている。

「ゆりもっと」サービスの仕組み



*「ゆりもっと」の導入コストは装置一式で30万円程度。年間利用料は約2万円(利用者側の携帯電話通信料は別途)

Profile

エコモット株式会社 http://www.ecomott.co.jp/	本社所在地 北海道札幌市西区琴似1条3丁目3-12 しなねん琴似ビル3F
	設立 2007年2月
	資本金 300万円

事業内容

インターネット・携帯電話に関するシステムの企画立案・開発および保守、携帯電話を使用した遠隔融雪装置の設計・販売、ロードヒーティングの施工・メンテナンスなど